

鹿児島湾から得られたフエダイ科魚類パラヒメダイ

畑 晴陵*・本村 浩之**

Harutaka HATA and Hiroyuki MOTOMURA : Record of *Pristipomoides typus*
(Perciformes : Lutjanidae) from Kagoshima Bay, southern Japan

はじめに

フエダイ科ヒメダイ属 (Lutjanidae: *Pristipomoides*) は、背鰭が10棘11軟条であること、背鰭背縁が深く切り込まないこと、背鰭と臀鰭が被鱗せず、最後軟条が糸状に伸長すること、吻は胸鰭よりも短く、裂孔を欠くこと、眼隔域が平坦であること、および鋤骨と口蓋骨に絨毛状歯をそなえることで特徴づけられ、世界に11種が知られている (ALLEN, 1985; AKAZAKI & IWATSUKI, 1987; ANDERSON & ALLEN, 2001)。そのうち日本からハナフエダイ *P. argyrogrammicus* (VALENCIENNES, 1832)、キマダラヒメダイ *P. auricilla* (JORDAN, EVERMANN & TANAKA, 1927)、オオヒメ *P. filamentosus* (VALENCIENNES, 1830)、キンメヒメダイ *P. flavipinnis* SHINOHARA, 1963、ナガサキフエダイ *P. multidentis* (DAY, 1871)、ヒメダイ *P. sieboldii* (BLEEKER, 1854)、パラヒメダイ *P. typus* BLEEKER, 1852、およびシマチビキ *P. zonatus* (VALENCIENNES, 1830) の8種が報告され (島田, 2013)、鹿児島県からは、沖縄諸島以南の琉球列島と静岡県伊東市沖からのみ報告されているパラヒメダイ (御宿, 2006; 島田, 2013) を除く7種が報告されていた (桜井, 2014; 小枝ほか, 2015; HATA & MOTOMURA, 2016a, b; 鍋木, 2016; HATA *et al.*, 2017)。

2016年10月7日に鹿児島湾から1個体のパラヒメダイが採集された。本個体は鹿児島県におけるパラヒメダイの標本に基づく初めての記録となるため、ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法はSHINOHARA (1963) にしたがった。標準体長は体長と表記し、体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1 mmまでおこなった。パラヒメダイの生

鮮時の体色の記載は、固定前に撮影された鹿児島県産の1標本 (KAUM-I. 93766) のカラー写真に基づく。標本の作製、登録、撮影、および固定方法は本村 (2009) に準拠した。本報告に用いた標本は、鹿児島大学総合研究博物館に保管されており、上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り：FAKU - 京都大学；KAUM - 鹿児島大学総合研究博物館；RD - 東南アジア漁業開発センター。

Pristipomoides typus (BLEEKER, 1852)

パラヒメダイ (図1)

調査標本：KAUM-I. 93766, 体長312.0 mm, 鹿児島県指宿市山川港沖, 2016年10月7日, 釣り (鹿児島市中央卸売市場魚類市場にて購入), 畑 晴陵。

記載：背鰭棘数10；背鰭軟条数11；臀鰭棘数3；臀鰭軟条数8；胸鰭軟条数16；腹鰭棘数1；腹鰭軟条数5；側線有孔鱗数51；前鰓蓋骨上の鱗列数5；背鰭前方鱗数13；側線上方横列鱗数7；側線下方横列鱗数12。

体各部の体長に対する割合 (%)：体高32.3；頭長31.1；吻長10.5；上顎長13.1；眼隔幅幅8.0；眼径7.2；尾柄高10.7；胸鰭長30.6；眼窩骨幅5.3；背鰭第1棘長5.7；背鰭第2棘長11.5；背鰭第3棘長13.1；背鰭第4棘長14.3；背鰭第5棘長14.5；背鰭最後軟条長16.3；臀鰭第1棘長3.6；臀鰭第2棘長7.4；臀鰭第3棘長7.9；最後臀鰭軟条長14.2。

体は前後方向に長い楕円形で、側扁し、体高は背鰭起部で最大。吻端から背鰭起部にかけての体背縁は緩やかに上昇し、そこから尾鰭基底にかけて緩やかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけて緩やかに下降し、そこから臀鰭起部にかけては体軸と平行となり、臀鰭起部から尾鰭基底にかけて緩やかに上昇する。胸鰭基

* 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科

The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan E-mail: k2795502@kadai.jp

** 〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

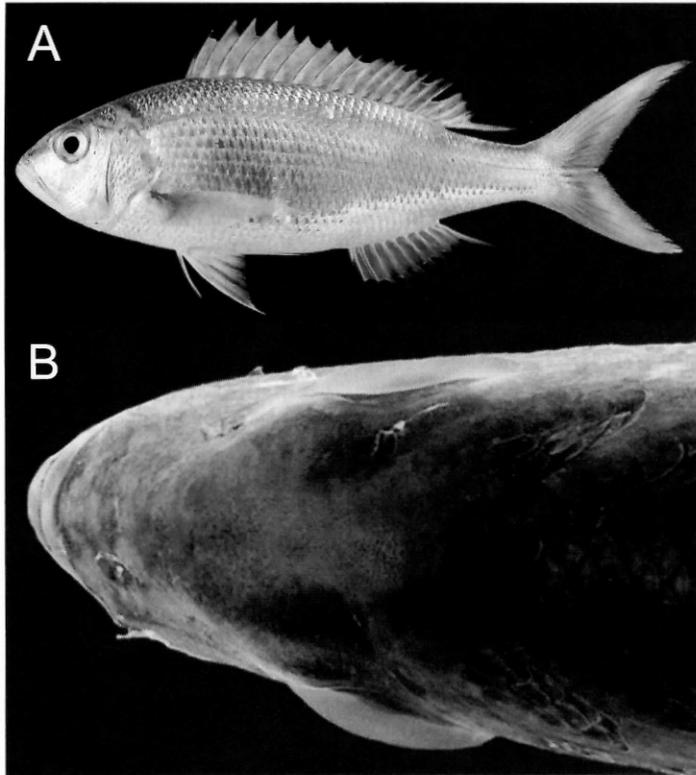


図1 バラヒメダイ *Pristipomoides typus* の体側面 (A) と頭部背面 (B)。KAUM-I. 93766, 体長 312.0 mm, 2016 年 10 月 7 日, 鹿児島湾, 鹿児島県指宿市山川港沖。
 Fig. 1. (A) Lateral view of body and (B) dorsal view of head of fresh specimen of *Pristipomoides typus*. KAUM-I. 93766, 312.0 mm standard length, off Yamagawa Port, Ibusuki, Kagoshima Bay, Kagoshima Prefecture, southern Japan.

底上端は鰓蓋後端よりも僅かに前方に位置し、胸鰭基底下端は腹鰭起部よりも僅かに前方に位置する。胸鰭後端は尖り、肛門には達せず、背鰭第9棘起部直下に位置する。腹鰭起部は背鰭起部よりも僅かに前方に位置し、腹鰭基底後端は背鰭第2棘起部直下に位置する。腹鰭最後の軟条は鱗膜で体とつながる。たまただ腹鰭の後端は肛門に達しない。背鰭起部は腹鰭第3軟条起部直上に位置し、背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも僅かに後方に位置する。背鰭棘は第4棘が最長。棘部の鱗膜は僅かに切れ込むが、背鰭背縁は深く凹まない。背鰭軟条は全て分枝する。背鰭軟条部はほぼ同じ高さであるが、最後軟条のみ糸状に伸長する。臀鰭起部は背鰭第2軟条起部よりも僅かに前方に位置し、臀鰭基底後端は背鰭基底後端よりも僅かに前方に位置する。臀鰭棘は第3棘が最長。臀鰭軟条は全て分枝し、最後軟条は糸状に伸長する。尾鰭は二叉型で、深く湾入する。肛門は正円形で、臀鰭起部前方に位置する。眼、瞳孔はともに正円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し、眼の前縁前方に位置する。前鼻孔は正円形を呈し、後鼻孔は前後方向に長い楕

円形。前鼻孔の後縁には皮弁をそなえる。体は剥がれにくい櫛鱗に被われ、各鰭、両顎、吻部、眼の周囲、前鰓蓋骨後部は無鱗。背鰭前方鱗被鱗域の先端は眼窩後縁よりも後方に位置し、前縁は楔形。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状を呈し、鰓蓋後縁は円滑。頭長は眼窩骨幅の5.9倍。口裂は大きく、上顎後端は眼の先端よりも後方に達するが、瞳孔の先端よりも前方に位置する。上顎前部には1対の牙状歯をそなえる。上顎側部の外側には鋭い円錐歯が1列に並び、内側には絨毛状歯が密生し、歯帯を形成する。鋤骨歯と口蓋骨歯はともに絨毛状。下顎は先端に1対の鋭い牙状歯をそなえ、側部には1列の円錐歯が並ぶ。舌上は無歯。擬鰓上にフィラメント状の鰓弁を有する。鰓耙は細長く、棒状。側線は完全で、鰓蓋上部後方から尾鰭基底にかけて、体背縁と平行にはいる。

生鮮時の色彩：体背面から体側上部にかけては淡い桃色を呈し、体側中央から体腹面にかけては一様に銀白色。体背面の各鱗は水色に縁取られる。体背面から体側中央部の各鱗には中央部に黄色斑がある。頭部側面は一様に

淡い桃色を呈し、斑紋がない。背鰭は白色を呈し、背鰭背縁は黄色、後縁は桃色。背鰭中央部には、瞳孔よりも小さい、桃色に縁取られた黄色斑が前部では1列に並び、後部に行くにしたがい、列が増え、背鰭後端では3列になる。胸鰭は黄色を呈し、各軟条は淡い桃色に縁取られる。腹鰭と臀鰭は白色半透明。尾鰭は桃色を呈し、上葉と下葉の後縁は橙色と白色にそれぞれ縁どられる、虹彩は橙がかった金色を呈し、瞳孔は青みがかった黒色。頭部背面には前後方向に長い、細い黄色帯と黄色小斑点が散在する。

アルコール保存標本の体色：体背面と体側上部は紫がかった灰色となり、体腹面は一樣に鈍い銀色となる。体各部の黄色斑は一樣に消失する。各鰭は乳白色となる。

分布：アンダマン海からパプアニューギニア、日本にかけての東インド洋・西太平洋から知られている (SENTA & TAN, 1975; ALLEN, 1985; ANDERSON & ALLEN, 2001; 島田, 2013; CHEN & THANG, 2015; CAMPOS, 2017)。日本国内では静岡県伊東市川奈沖、沖縄諸島以南の琉球列島からのみ記録されていたが (山本・島田, 1998; 御宿, 2006; 島田, 2013)、本研究によって新たに鹿児島湾における分布も確認された。

備考：記載標本は側線有孔鱗数が51であること、体背面から体側上部にかけての地色が淡い桃色であること、頭部背面には前後方向に長い、細い黄色帯と黄色小斑点が散在すること、頭部側面は一樣に淡い桃色を呈し、斑紋がないことなどが、SENTA & TAN (1975)、ALLEN (1985)、ANDERSON & ALLEN (2001)、および島田 (2013) の報告した *Pristipomoides typus* の標徴とよく一致したため、本種と同定された。バラヒメダイは側線有孔鱗数が48-52であることなどでナガサキフエダイ *P. multidens* に類似するが、頭部側面に斑紋がないこと (後者では吻部に青色斑に縁取られる2黄色縦帯がはいる)、頭部背面に前後方向に長い黄色帯がはいること (左右方向に長い黄色帯がはいる) などで識別される (SENTA & TAN, 1975; ALLEN, 1985, ANDERSON & ALLEN, 2001; 島田, 2013; 畑・本村, 2016b)。

Pristipomoides typus は BLEEKER (1852) によりインドネシア・スマトラ島シボルガから得られた2個体に基づき記載された。その後、SENTA & TAN (1975) はボルネオ島北方の水深65-74 m から得られた2個体 (RD7209079, 体長405 mm, RD7209080, 体長205 mm)、マレー半島東岸の水深63-66 m から底曳網によって得られた3個体 (RD7308001, 体長173 mm, RD7309026, 体長287 mm, RD7309034, 体長144 mm)、マレー半島西

方の水深85 m から底曳網によって得られた8個体 (RD7402014-7402021, 体長204-269 mm) とアンダマン海東部の水深105-130 m から釣りによって得られた2個体 (RD.S.7405, 7406, 体長416-530 mm)、シンガポール・ジュロン市場に水揚げされたマレーシア産1個体 (RD7407001, 体長512 mm) の計16個体の *P. typus* をナガサキフエダイ13個体と比較すると同時に、*P. typus* に対して和名バラヒメダイを提唱した。吉野 (1984) は本種が沖縄島近海の深海域から極めて稀に釣獲されることを報告した。山本・島田 (1998) はバラヒメダイが沿岸漁場総合整備開発基礎調査の一環で、石垣島と西表島の近海からそれぞれ15個体と3個体が得られたことを報告した。また、御宿 (2006) は相模湾西部、静岡県伊東市川奈から得られたバラヒメダイ1個体 (尾叉長40 cm, 体重1.2 kg) を報告し、これが本種の分布の北限と考えられる。

これまでバラヒメダイは鹿児島県内各地における魚類相調査においても報告されていない (例えば、財団法人鹿児島市水族館公社, 2008; MOTOMURA *et al.*, 2010, 2013, 2015; 本村・松浦, 2014; 鍋木, 2016)。したがって、これまでバラヒメダイの日本国内における分布は沖縄諸島以南の琉球列島と静岡県伊東市沖に限られている (御宿, 2006; 島田, 2013)。なお、御宿 (2006) の報告したバラヒメダイは標本として残されておらず、本研究の記載標本は本種の鹿児島県における初めての記録となると同時に、標本に基づく本種の北限記録となる。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり、鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金 (28-745)、JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265)、JSPS 研究拠点形成事業-アジア・アフリカ学術基盤形成型-「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」、総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイバビリティの向上プロジェクト」、国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」、文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」、および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

引用文献

AKAZAKI, M. & Y. IWATSUKI. 1987: Classification of the

- lutjanid fish genus *Pristipomoides* (Percoidei). *Jpn. J. Ichthyol.*, **34** (3), 324-333.
- ALLEN, G. R. 1985 : FAO species catalogue. Snappers of the world. An annotated and illustrated catalogue of the lutjanid species known to date. FAO Fish. Synop., 125, 6, 1-208.
- ANDERSON, W. D. & G. R. ALLEN. 2001 : Lutjanidae Snappers (jobfishes). in K. E. CARPENTER & V. H. NIEM (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae), 2840-2918. FAO, Rome.
- BLEEKER, P. 1852 : Diagnostische beschrijvingen van nieuwe of weinig bekende vischsoorten van Sumatra. Tiental I - IV. *Natuurkundig Tijdschrift voor Nederlandsch Indië*, **3** (4), 569-608.
- CAMPOS, W. L. 2017 : *Pristipomoides typus* Bleeker, 1852. in H. MOTOMURA, U. B. ALAMA, N. MUTO, R. P. BABARAN & S. ISHIKAWA (eds.) Commercial and bycatch market fishes of Panay Island, Republic of the Philippines, 137. The Kagoshima University Museum, Kagoshima, University of the Philippines Visayas, Iloilo, and Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto.
- CHEN, D. & M. ZHANG. 2015 : Marine fishes of China. 2154 pp. China Ocean University Press, Qingdao.
- HATA, H., H. IWATSUBO & H. MOTOMURA. 2017 : First specimen-based records of *Pristipomoides auricilla* (Perciformes: Lutjanidae) from the Satsunan Islands, Japan. *Biol. Mag. Okinawa*, **55**, 19-26.
- & H. MOTOMURA. 2016a : First specimen-based records of *Pristipomoides flavipinnis* (Perciformes: Lutjanidae) from the Tokara and Amami islands, Japan. *South Pac. Studies*, **36** (2), 103-110.
- 畑 晴陵・本村浩之. 2016b : 種子島から得られたナガサキフエダイ *Pristipomoides multidens*. *Nat. Kagoshima*, **42**, 225-229.
- 鎚木絃一. 2016 : 種子島の釣魚図鑑. 157pp. たました舎, 西之表.
- 小枝圭太・前川隆則・本村浩之. 2015 : 奄美大島から得られたシマチビキ *Pristipomoides zonatus*. *Nat. Kagoshima*, **41**, 111-114.
- 御宿昭彦. 2006 : 稀種バラヒメダイ. *伊豆分場だより*, **307**, 19.
- 本村浩之. 2009 : 魚類標本の作製と管理マニュアル. 70pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- ・羽根慎一・古田和彦・松浦啓一 (編). 2013 : 鹿児島県三島村 硫黄島と竹島の魚類. 390pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- MOTOMURA, H., A. HABANO, Y. ARITA, M. MATSUOKA, K. FURUTA, K. KOEDA, T. YOSHIDA, Y. HIBINO, B. JEONG, S. TASHIRO, H. HATA, Y. FUKUI, K. EGUCHI, T. INABA, T. UEJO, A. YOSHIURA, Y. ANDO, Y. HARAGUCHI, H. SENOU & K. KURIWA. 2015 : The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Mem. Fac. Fish. Kagoshima Univ.*, **65**, 10-34.
- , K. KURIWA, E. KATAYAMA, H. SENOU, G. OGIHARA, M. MEGURO, M. MATSUNUMA, Y. TAKATA, T. YOSHIDA, M. YAMASHITA, S. KIMURA, H. ENDO, A. MURASE, Y. IWATSUBUKI, Y. SAKURAI, S. HARAZAKI, K. HIDAKA, H. IZUMI & K. MATSUURA. 2010 : Annotated checklist of marine and estuarine fishes of Yaku-shima Island, Kagoshima, southern Japan. in H. MOTOMURA & K. MATSUURA (eds.) Fishes of Yaku-shima Island-A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan, 65-247. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 本村浩之・松浦啓一 (編). 2014 : 奄美群島最南端の島一与論島の魚類. 648pp. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- 桜井 雄. 2014 : フエダイ科. in 本村浩之・松浦啓一編. 奄美群島最南端の島 与論島の魚類, 230-239. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば.
- SENTA, T. & S.-M. TAN. 1975 : On *Pristipomoides multidens* and *P. typus* (Family Lutjanidae). *Jpn. J. Ichthyol.*, **22** (2), 68-76.
- 島田和彦. 2013 : フエダイ科. in 中坊徹次編. 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版, 913-930, 2001-2004. 東海大学出版会, 神奈川.
- SHINOHARA, S. 1963 : Description of the new lutjanid fish of the genus *Pristipomoides* from the Ryukyu Islands. *Bull. Arts Sci. Div., Ryukyu Univ.*, **6**, 49-53.
- 山本隆司・島田和彦. 1998 : 沿岸漁場総合整備開発基礎調査の概要. in 沖縄県水産試験場編. 平成9年度沖縄県水産試験場事業報告書, 176-180. 沖縄県水産試験場, 那覇.
- 吉野哲夫. 1984 : バラヒメダイ *Pristipomoides typus* (BLEEKER). in 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編. 日本産魚類大図鑑, 162, pl. 153-B. 東海大学出版会, 東京.
- 財団法人鹿児島市水族館公社 (編著). 2008 : 鹿児島水族館が確認した一鹿児島島の定置網の魚たち. 260pp. 財団法人鹿児島市水族館公社, 鹿児島.